第25号
2011.7.22

若狭町
議会だより

女性消防団員誕生（三方消防団）

上中地区消防操法大会

◆もくじ

議長就任挨拶……P2
委員会組織……P2～3
6月定例会……P4
一般質問……P5～7
議会の動き……P8

ご挨拶

若狭町議会議長
武田　敏孝

議長就任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

このたび五月十一日に召集されました臨時議会において議員各位のご推挙を受け、議長の要職に就かせていただきました。誠に光栄であり、身の引き締まる思いであります。このうえは若狭町発展のため、その職務を全うしていかねばならないと決意を新たにしている次第であります。

東日本大震災に端を発した福島第一原発の事故により、町内にも大きな動揺が起こっております。事故の一刻もはやい収束をお祈りするとともに、行政と連携し、県内原発の安全対策の強化に向け、関係機関に働きかけを強めなければなりません。

全国的な議会改革の流れの中、若狭町議会も取り入れられる点については、先行的、積極的に改革に取り組んできました。これからも、町民の皆様の声を大事に、「開かれた議会・信頼される議会」を目指し、改革の歩みを止めないようにと心がけております。

若狭町の意思決定機関としての責務を自覚し、誰もが住みたくなる町、そして町民の皆様が、夢と希望が持てる安全な町づくりのため、誠心誠意努力してまいる所存であります。

町民の皆様のご指導、ご支援、そしてご理解を賜りますようお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

委員会組織が変わりました

若狭町議会構成

議　長　武田　敏孝

副議長　藤本　勲

議会運営委員会

◎委員長
○副委員長

◎小堀　友廣
○藤田　美穂
藤本　佳司
柘原　直仁
北原　武道
藤本　勲

監査委員

福谷　洋

農業委員

藤本　佳司

教育厚生常任委員会

◎藤本　佳司
○北原　武道
福谷　洋
藤田　美穂
清水　利一
大塚　季由
中島　正昭
小林　和弘
松本　孝雄

予算決算常任委員会

◎藤本　勲
○柘原　直仁
議長を除く17名

総務産業建設常任委員会

◎柘原　直仁
○霜中　茂実
松岡　喜一
武田　敏孝
小堀　友廣
藤本　勲
小堀　信昭
中村　正彦
増井九右衛門

議会改革特別委員会

◎松岡　喜一
○小林　和弘
霜中　茂実
北原　武道
藤田　美穂
小堀　信昭

広報特別委員会

◎大塚　季由
○中村　正彦
藤本　佳司
柘原　直仁
武田　敏孝
藤本　勲

原子力発電安全対策特別委員会

◎柘原　直仁
○小堀　友廣
福谷　洋
武田　敏孝
清水　利一
大塚　季由
中島　正昭
小堀　信昭
増井九右衛門

三方五湖スマートインター特別委員会

◎中村　正彦
○清水　利一
藤本　佳司
藤本　勲
松本　孝雄
増井九右衛門

公立小浜病院組合議員

小堀　信昭（副議長）
大塚　季由（常任委員）
中島　正昭（常任委員）
北原　武道
藤田　美穂

福井県後期高齢者医療広域連合議会議員

武田　敏孝

嶺南広域行政組合議員

大塚　季由（代表）
松岡　喜一
武田　敏孝

敦賀・美方消防組合議員

増井九右衛門（代表）
小堀　友廣
藤本　勲

若狭消防組合議員

霜中　茂実（副議長）
小林　和弘

美浜・三方環境衛生組合議員

松本　孝雄（副議長）
柘原　直仁（監査委員）
藤本　勲
小堀　信昭
中村　正彦

6月定例会

開催期間　6月10日～6月27日

一般会計予算を1,046万5千円増額可決

本年度総額105億6,649万2千円

集落の拠点施設
〔白屋集落センター
成願寺集落センター
天　徳　寺　会　館〕
改修に464万円を助成します

災害時防災対応衛星電話設置事業	63万円
小中学校の図書室充実のための事業 障害者アート活動支援業務委託事業	447万6千円
農業者支援地域農業サポートプラン事業	63万4千円
豊かな体験活動推進事業	8万5千円

図書館

農作業

特別会計補正予算

簡易水道事業特別会計1,410万円

高速道路工事に伴う配水管付設工事

議会で原子力発電、ＴＰＰ交渉についての意見書提出！

意見書の内容は、原発事故の一刻も早い収束と防災指針の抜本的な見直し、速やかな生産活動の再開支援、すべての直接的間接的被害の補償を求めています。

農業問題では食糧自給率の向上及び食の安全・安心を損なうことなく、農業政策の充実を訴え、ＴＰＰ国際貿易交渉への参加は国内農業の振興と、日本経済の全体的な振興も併せて慎重に検討すべきとの意見書を政府及び関係機関に提出しました。

一般質問

（文責：質問者本人）

豪雨・災害の対策は

町長　トンネル・放水路を　国、県へ要望していく

松本孝雄　議員

松本　5月30日の豪雨により三方五湖が増水し、国道162号が別庄地係りで冠水により通行止めとなりました。頻繁に冠水する個所です。抜本的な対策を。

町長　抜本的な対策として、水月湖から日本海に抜けるトンネル放水路の整備が急務である。現在の進捗状況は、事業実施の前提となる河川整備計画の策定に向けた事前協議が国との間で行われています。また敦賀土木事務所では昨年度、準備のための調査を実施しました。

松本　同豪雨により、県道常神三方線神子地区に於いて、土砂崩れが発生しました。幸い通行人や車両の輪禍はありませんでしたが、生活には大きな障害となっています。また、観光シーズンを控え誘客への影響を懸念しています。崩壊の再発防止の対応は。

町長　現在、神子集落の両側で大型車両が通行できない状況です。緊急工事を実施し復旧に取り組んでいます。一昨年開通の遊子トンネルに続いて事業採択されている神子・小川間のトンネル工事に係る用地買収と、掘削の準備が進められています。一日も早い全てのトンネルの工事着工を要望していきます。

松本　福島第一原子力発電所事故の発生により、遠く離れた若狭町に於いても「原電銀座」と言う冠の付いた観光地として、早くも風評被害が発生しています。町当局は風評被害一掃の為に、どの様な施策を取られるのか。

町長　まず、国・県に対して早期収束をお願いしています。また、国・県・電力業者に対し、若狭路の観光安全宣言を早急に行う等、風評被害の払拭に全力で取り組むよう、要望書を提出しています。町の取り組みとして、積極的にイベント開催を実施して観光客の取り込みに努めています。また定着しつつある台湾からの誘客獲得に、さらなるＰＲに取り組んでまいります。

防災対策を伺う

町長　安全協定を含め　国、県へ要望していく

小堀信昭　議員

小堀　西浦地区で道路崩落があった。地区から毎年改善要望が出ている。今後の対策は。

町長　国・県それぞれの箇所の対応に応じて各機関にトンネル化を要望していく。

小堀　上中地域、三方地域の緊急告知放送に差がある。統一できないか。

町長　三方地域の有線未加入1250世帯への機器の設置が必要で、改修費に1億円必要であり現状では困難。

小堀　ＭＭネットにスピーディな状況を流せないか。

町長　ＭＭネット防災チャンネルは、三方地域だけで整備は考えていない。

小堀　原発災害用安定ヨウ素剤は用意されているか。

町長　町では用意していない。安定ヨウ素剤は県が服用する時期や範囲を定めている。

小堀　安全協定の見直しは。

町長　周辺環境の安全確保等、通報連絡立ち入り調査の権限、運転再開協議にも意見が述べられるように求めていく。

小堀　緊急避難路対策は。

町長　国道303号のトンネル整備、若狭湾快速鉄道の新設は、防災上の観点からも必要。

小堀　景観条例を策定できないか。

三方湖畔に住宅が建つ。景観というのは一度壊すと元に戻らないので、景観を守るため町として景観条例を策定できないか。

町長　同地は自然公園法第2種特別区域に当たり、文化財保護法における名勝の管理区域としては第3種に当たるが、現況では許可が下りている。厳しい規制により住民の生活に支障が出て、住みにくいものとなってもいけなく、景観保全のため調和のとれた取り組みをしていく。

一般質問

清水利一　議員

原子力災害にかかる町対応策はどう取り組むのか

町長　原子力環境安全管理協議会（安官協）を立ち上げ、安全指針、防災対策の見直しを訴えていく

清水　町の原子力防災計画と安全対策の検証、見直しについての防災危機管理面の強化をどのように取り組むのか。

町長　国、県の防災計画の内容に基づいて策定となるが、広域的に避難方法などを含め、取り決めを示すよう訴えていく。

清水　隣府県との広域的に複合的な避難マニュアル策定を考えているか。

町長　嶺南で一つの計画でないと安全につながらない。広域的なマニュアル策定に取り組みたい。

清水　準立地（隣接）市町村協議会等の対応と、わが町の方向姿勢は。

町長　国へは安全指針や防災対策の見直し、電力事業者には、安全協定の内容を立地並みの立入り調査権、再起動協議参加等を訴えていく。また、町の原子力環境安全管理協議会を立ち上げ、行政と議会とが密に連携していく。

清水　復興財源等により、交付金の減額に対するわが町の影響と対応は。

総務課長　地方交付税の減収総枠で事業の縮小の対応も考えられる。

清水　町の公共面の節電対応についての考えは。

総務課長　節電意識をもって管理に努めていく。

清水　台風2号による災害の対応について伺う。

町長　大小の規模で被害状況が確認されている。

総務課長　町が事業主体となり国の査定を受けるもの、県が事業主体で復旧するもの、町独自対応と地元対応可能とに区分して克服していきたい。

増井九右衛門　議員

水道基本計画のない料金改定は根拠がないこれで住民説明が出来たとの考えか

町長　今後、集落の基本計画に沿った説明が必要と思うので考えたい

増井　三方地区の施設が経年化で料金改定して計画的な改修を可能にするとの事だが、簡易水道時の改修も計画的に改修し、維持管理可能と平成15年に料金が引き下げられた。町内料金を単に統一でなく具体的説明を伺う。

水道課長　簡易水道の料金は日常の修繕費はあるが大規模なものは、事業負担金か積立基金で対応。企業会計は減価償却の形で積立て、大規模改修に対応する。今回の料金改定は将来の上水道化に向けての改正。

増井　料金改定が利用者別、世帯別にどのような影響を受けるか伺う。

町長　今回の三方地区の集落座談会で料金改定は大方の同意を頂いたとの感想を持っている。

水道課長　簡水で10㎥未満35％、20㎥迄22％、30㎥迄17％、40㎥迄11％、50㎥以上15％、上水もほぼ同数値。料金的に10㎥以下は262円減額、20㎥迄525円増額、30㎥迄1025円増額、40㎥迄1602円増額となります。

美浜・大飯原発から20㎞圏内の国道162号と県道常神線整備について

増井　この2路線の原子力安全協定と防災計画の位置づけは。

今回の台風で通行止となった国道162号の冠水防止対策と、常神線のトンネル化が早急の課題。県は核燃料税を17％に予定しており、この財源を避難道路として早期整備を要望すべき。

町長　国の原子力防災計画は10㎞圏内で避難道路の位置づけはない。今回の福島原発事故の様な事が、仮に嶺南で起これば当然避難道路となるのは必然的であり、また今回の通行止を踏まえ、この2路線の整備は、地元の声をしっかり受け止め県に要望する。核燃料税の上積みは、避難道路に使うということは聞いていない。

増井　県内市町の原子力防災計画の考えは。

環境安全課長　国、県の指示を受け今後検討したい。

小林和弘　議員

県議選での町長の応援姿勢に疑問

町長　平等を期す為、応援は控えた

県議選での町長の応援姿勢について

小林　若狭町の二候補に何の応援もなかったが、平等を期す為との理由だが、両者に応援する事も平等の筈。積極的態度を取るべきだったのでは。

町長　選挙戦で町が二分される模様が深まり、町内の融和をモットーに町政を推進している立場から、熟考を重ね、また多くの方々にも相談し、応援は差し控えるべきとの結論に達したもの。

小林　県への陳情に県議の力が必要だが、わだかまりなく両議員と活動できるのか。

町長　意思疎通は問題なく、町の諸問題、原発事故に関しても両先生にお手伝い願っていく。

嶺南一市構想について

小林　マニュフェストに掲げられた嶺南一市構想だが、若狭町ですら、警察、消防は別で、JA三方五湖は敦賀と一緒になる。原発問題もあり、道州制の勉強を進めては。

町長　若狭湾観光連盟、若狭森林組合が発足し、消防もその様な動きがある。原発問題を考えた時嶺南一市構想は継続すべき。若狭町で統一されていない問題は住民が今の形で安心し、満足している。

上中庁舎の有効利用について

小林　この問題だけは議員の間に決着したい。現状はどうなっているか。

町長　一階はサービス室、健康課、福祉課、三階をトコトコ教室、レセプト点検、職員安全協会の嶺南事務所に活用。

小林　一歩一歩進めてもらっているが、まだスペースがあり、大掛かりな活用を要望する。

上中庁舎

北原武道　議員

再生可能エネルギーの産業化を

町長　国が普及施策を打ち出すべき

北原　「原発がどうなるか」は、町の将来にとって重要な問題である。国内の電力供給事情は、今後、どのように変化すると認識しているか。

町長　福島の事故で、短期的には火力発電への依存が高まる。自然エネルギーの導入が重要だが、すぐ原発の穴を埋めるのは不可能である。国において早急に具体的なエネルギー計画を示して欲しい。

北原　現在のエネルギー基本計画では、「クリーンエネルギー化」、と「省エネ化」の2つがポイントになっている。クリーンエネルギー（再生可能エネルギー）を推進するとしている。しかし、何年も影響が残る放射性物質を広範囲に撒き散らかした原子力発電は、クリーンでないことがはっきりした。クリーンエネルギーから脱落した菅首相も、再生可能エネルギーと省エネを、今後の柱にすると表明している。ところで、再生可能エネルギーを活用して新しい産業を興し、雇用を拡大してきた自治体がたくさんある。経済や雇用を原発に依存してきた嶺南地域こそ、いま再生可能エネルギーの産業化を真剣に考えないといけない。例えば、関電の熊川発電所より少し小さい、出力100㎾の水路式発電所を町が作ったとする。関電は1㎾時48円で電気を買ってくれるので、年間4千2百万円の売り上げになる。これを元手に町がやるか、民間に補助するかして、2番目の発電所が作れる。こんな手法で岩手県葛巻町では、風力、太陽光、バイオマスと広げ、町の電力自給率は160％になり、新産業の育成、雇用の増加に成功している。ところで、関電は1㎾時23円で電気を売っている。25円の「赤字」は電気料金で穴埋めされる。このように「再生可能エネルギーの生産」は、何もしない所が、生産した所に金を払うしくみになっている。本町が生産者になることは考えられるか。また、個人や団体が生産者になった場合に町独自の支援をすることができるか。

町長　国が新たなエネルギー計画を策定して、再生可能エネルギーの普及施策を打ち出すべきである。そうすれば、助成が制度化されると思う。

議会だより　第25号　発行／若狭町議会 広報特別委員会
〒919-1393　福井県三方上中郡若狭町中央1-1　TEL.0770-45-9117

議　会　の　動　き

梅選果場で青梅の初出荷のセレモニーが開催され、議長が出席しました。(6月8日)

災害・豪雨
５月29日～30日に神子地係で崩落があり、議会で現場視察しました。(6月6日)

町道10号線の改良工事が完成し、議長、副議長、総務産建委員長が竣工式に出席しました。(6月26日)

議会に原子力保安院の出席を求め、福島の原発事故についての説明と今後の対応を聞き、議員より厳しい意見が出されました。(6月23日)

編集後記

５月11日の臨時議会で議会組織の構成変えがあり、この一年間私達が広報委員として、編集作業に取り組んでまいります。

町民の皆様により身近にご愛読いただきますよう努めてまいります。

どうぞよろしくお願い申しげます。

〔広報編集委員〕
委員長　大塚季由
副委員長　中村正彦
委員　藤本佳司
委員　柘原直仁
委員　武田敏孝
委員　藤本　勲